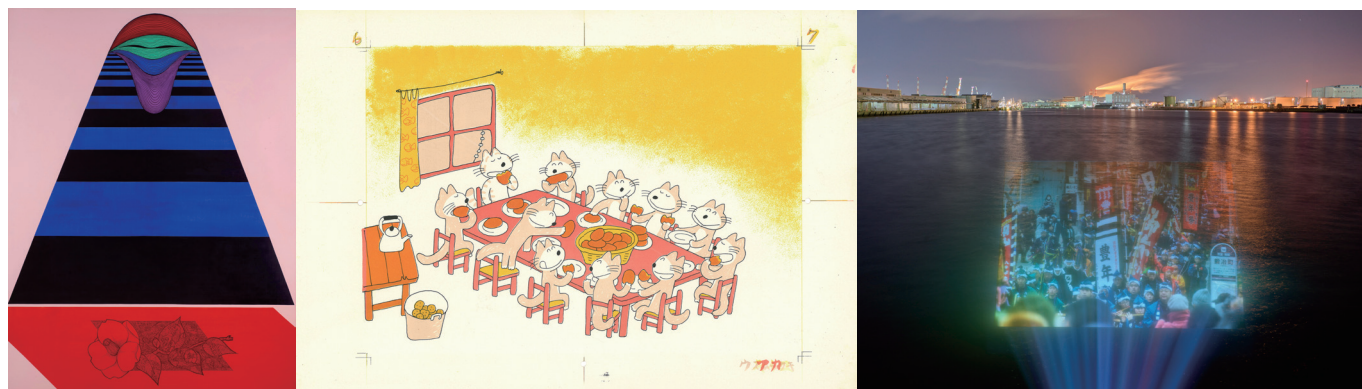


八戸市美術館 2022 年 4 月～ 2023 年 8 月

今後の主催企画ラインナップ

——2023 年度ゲストキュレーター企画、ジャイアント食堂ほか



1. 2023 年度ゲストキュレーターに森司を迎えた企画を実施

2023 年度春夏の新規企画は、ゲストキュレーターを迎え、現代アートの展覧会とプロジェクトを開催します。2022 年度から野点を楽しむプロジェクトなど先行してスタートします。

2. ジャイアントルームを1日楽しむ「ジャイアント食堂」開催

ジャイアントルームの可能性を探るプロジェクトを6月25日(土)に開催。アーティストの居間 theater が演出・構成、八戸市出身の音楽家・批評家の大谷能生が音楽監督・出演。

3. 2022 年度の年間スケジュール発行、各企画日程決定

2022 年度に開催する「まるごと馬場のぼる展 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ!」「佐藤時啓一八戸マジックランタン」のタイトル、会期が決定しました。

4. 「持続するモノガタリ」アーティストトークなどイベント続々

4月24日(日)に石橋忠三郎、5月22日(日)に今川和男のアーティストトークがあるほか、学芸員によるギャラリートーク、木曜日夕方の鑑賞クラブ「木夕」などイベントを開催。

お問い合わせ先

八戸市美術館 031-0031 青森県八戸市大字番町 10-4 TEL | 0178-45-8338(代表番号) FAX | 0178-24-4531
E-mail | art@city.hachinohe.aomori.jp 八戸市美術館公式 HP | <https://hachinohe-art-museum.jp>
担当者(広報)|大澤、山内

2023 年度春夏企画はアーティスト 6 名が 参加する現代アートの展覧会とプロジェクト。 ゲストキュレーターに森司を招聘。

2022 年度は先行してプロジェクトがスタート

ゲストキュレーターに、東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京の東京アートポイント計画ディレクターの森司を迎え、展覧会とプロジェクトを実施します。

2022 年度は展覧会に先行してプロジェクトがスタート、きむらとしろうじんじんの野点プロジェクトや、井川丹の音楽作品の制作や録音などを行います。



森 司
MORI Tsukasa

1960 年愛知県生まれ。前職の水戸芸術館現代美術センター学芸員時代（1989-2009）には、川俣正、日比野克彦、宮島達男などの個展を企画する。2009 年より公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京事業部事業調整課長。「東京アートポイント計画」ディレクターとして NPO などと協働したアートプロジェクトの立ち上げから企画運営に関わり、人材育成プログラム「Tokyo Art Research Lab」を手掛ける。2011 年 7 月から 2021 年 3 月まで「Art Support Tohoku-Tokyo (ASTT)」を担当した。2015 年より東京都オリンピック・パラリンピックリーディング事業ディレクターとして、障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を表現として生み出すアートプロジェクト「TURN」を担当し、TURN フェスなどを実施する。東北芸術工科大学客員教授、女子美術大学特別招聘教授。

• 企画名

美しい HUG(仮)

• 会期

2023 年 4 月 29 日(土)～ 8 月 21 日(月)

• 会場

八戸市美術館ホワイトキューブ、コレクションラボ、ブラックキューブ、ジャイアントルームを予定

• アーティスト

青木野枝、井川丹、川俣正、きむらとしろうじんじん、黒川岳、タノタイガ（五十音順）

• ゲストキュレーター

森司（東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京事業部事業調整課長／東京アートポイント計画ディレクター）

ゲストキュレーター森司氏からのメッセージ

昨年八戸市にオープンした美術館は、プロジェクトや講演会を展開するための場である「ジャイアントルーム」が特徴で、飲食も可能な、屋根のある広場のように人が集う場です。この「ジャイアントルーム」を日常生活と地続きにある流動的な時間軸を帯びる動的な空間だとすると、作品を展示するためのギャラリースペース「ホワイトキューブ」は作品が鎮座する静的で非日常的な空間です。

この性格が異なる二つの空間の連なりが、新しい八戸市美術館のあり様と捉えています。

それぞれ「アートプロジェクト」と「アートワーク」のための場と規定しつつも、それに囚われない「新しい使い方」をゲストキュレーターとして試してみたいと考えています。

そこで、私は、6人のアーティストにお声がけをして、性格の異なる二つの空間が入れ子になるように、会場を構成することにしました。さらに、まちから美術館へと、あるいは美術館からまちへとつながることも考えています。

今回の展覧会タイトルは「美しい HUG」。

アーティストが美術館と出会う。鑑賞者が作品と出会う。ワークショップやプロジェクトと出会う。過去と現在と出会う。そして、多くの人々が「新しい美術館」で「アートプロジェクト」と「アートワーク」と出会う。ありったけの出会い方の創出をイメージして、「美しい HUG」という言葉に託しています。

ゲストキュレーター企画 2022 年度実施プロジェクト きむらとしろうじんじん 野点プロジェクト

陶芸釜・素焼きのお茶碗・うわぐすりなどの陶芸道具一式と、お抹茶セット一式を積んだリヤカーがまちに現れ、お茶碗を焼いてお茶が飲める場が開かれます。

参加者はその場でお茶碗に絵付けをし、楽焼き(らくやき)という方法で 40 分程で焼きあげられた自作のお茶碗でお茶を楽しむことができます。

・実施スケジュール

2022 年

5 月 プロジェクトスタッフ(アートファーマー)募集開始

6 月 11 日(土)・12 日(日) 説明会+お散歩会

7 月 16 日(金・祝)～18 日(日) 説明会+お散歩会

9 月 25 日(日) スタッフ向け野点体験会(八戸市美術館)

10 月 1 日(土) 野点本番(場所未定)



2016 年鳥取市用瀬町駅前 写真：田中良子



きむらとしろうじんじん

KIMURA Toshiro Jinjin

1967 年新潟生まれ。現在京都在住。

京都市立芸術大学大学院で陶芸を学ぶ。

1995 年より、その場で絵付けをして、楽焼きという方法で焼き上げられた自作のお茶碗で、その土地の、その日そのときの風景の中でお茶を楽しむことができる移動式陶芸お抹茶屋台「野点(のだて)」をスタート。以来、さまざまな土地の路上・路肩、公園や河原、空き地や刈り入れ後の田んぼ、神社やお寺、個人宅前や駐車場などさまざまな場所で行っている。青森県内では、1999 年に青森市、2005 年に青森市・弘前市で開催。八戸市では初開催となる。

美術館で1日中まきおこる食と音楽とパフォーマンスのイベント ジャイアント食堂

企画内容

美術館をより身近に楽しんでもらうことを目指し、ジャイアントルームの可能性を探るプロジェクトとして、6月25日(土)、1日限りの大食堂がオープンします。

美術館前の広場にはキッチンカーが出店。食べ物を片手に美術館で巻き起こるさまざまなイベントを朝から晩までお楽しみいただけます。さまざまな人が入れ替わりでパフォーマンスを披露する「ステージ」では、音楽ライブ、ダンス、カンフー体操などが登場。そのほか、絵画展示、建築ツアー、カラオケ大会、ビンゴ大会、キッズスペース、ワークショップなど盛りだくさんです。アーティストと美術館が共につくる不思議で愉快的な食堂です。



イラスト | きたがわゆう

• 日時

2022年6月25日(土) 8:00～21:00 入場無料・予約不要・出入り自由

• 会場

八戸市美術館 ジャイアントルーム、マエニワ

• 内容

キッチンカー出店、ステージ(市民パフォーマンス・音楽ライブ・カラオケ大会・ビンゴ大会)、絵画作品展示、ワークショップ、建築ツアーほか。キッズスペース・休憩スペースあり。

(プログラムの詳細と、タイムテーブルは後日、美術館WEBに掲載します。)

• アーティスト

演出・構成 | 居間 theater

音楽監督・出演 | 大谷能生

主催 | 八戸市美術館、東京藝術大学長島確研究室

助成 | 東京藝術大学「I LOVE YOU」プロジェクト 2022



居間 theater

Ima theater

東彩織、稲継美保、宮武亜季、山崎朋の4人からなるパフォーマンスプロジェクト。

2013年から東京谷中にある最小文化複合施設「HAGISO」を拠点に活動をスタート。音楽家や美術家、建築家、空想地図作家、研究者など分野の異なる専門家との共同制作のほか、カフェ、ホテル、区役所、待合室など、既存の“場”とそこにある“ふるまい”をもとに作品創作をおこなう。現実にある状況とパフォーマンスやフィクションを掛け合わせることで、現実を異化させるような独特の体験型作品をつくり上げている。



大谷能生

OTANI Yoshio

八戸市出身。音楽家(サックス・エレクトロニクス・作編曲・トラックメイキング)／批評家(ジャズ史・20世紀音楽史・音楽理論)。近著に『ニッポンの音楽批評150年の100冊』(立東舎。栗原裕一郎との共著)。『ジャニ研! TWENTY TWENTY』(原書房。速水健朗、矢野利裕との共著)などがある。ミュージシャンとしての最新作は『JAZZ MODERNISM』(Blacksmoker Record)。八戸市では、南郷アートプロジェクトでのジャズ講座(2011~13)、八戸ブックセンターの音楽監修などで関わる。

2022 年度全ての展覧会会期が決定

1. 主な主催展覧会

2022 年度の八戸市美術館は、現在開催中の「持続するモノガタリ語る・繋がる・育む 八戸市美術館コレクションから」を含む3つの企画展を開催します。

2022 年 7 月 2 日(土)～8 月 29 日(月)

まるごと馬場のぼる展 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ!



左 | 馬場のぼる《『11 ぴきのねことあほうどり』リトグラフ(色校用)》1972、こぐま社蔵 ©Noboru Baba
中央 | 馬場のぼる《『ブウタン』幼年ブック》1954 年 1 月号原画 個人蔵 ©Noboru Baba
右 | 馬場のぼる《『きつね森の山男』特装版》1999、こぐま社蔵 ©Noboru Baba

絵本「11 ぴきのねこ」シリーズで知られる青森県三戸町出身の漫画家・馬場のぼる(1927 - 2001)を、さまざまな側面から紹介する回顧展です。絵本や漫画に加え、50 年分のスケッチブックを紹介するほか、青少年時代の作品や資料などを通してルーツをたどります。

企画の見どころ | 幼い頃から絵を描くことが好きだった馬場のぼる。小学・旧制中学時代からの飛び抜けた画力をうかがわせる資料は見どころです。また、11 ぴきのねこの原点とされる作品も展示します。展覧会限定グッズ販売やイベントも予定。

主催 | まるごと馬場のぼる展八戸実行委員会(八戸市美術館、三戸町、株式会社デーリー東北新聞社、青森朝日放送株式会社、一般財団法人VISITはちのへ)

2022 年 10 月 29 日(土)～2023 年 1 月 9 日(月)

写真のまち八戸 佐藤時啓—八戸マジックランタン—



左 | 佐藤時啓「マジックランタン」シリーズより
右 | カメラ・オブスクラワークショップの様子

カメラ・オブスクラや長時間露光などの写真の原理や現象を利用して作品を制作する美術家・写真家の佐藤時啓(1957-)の個展です。マジックランタン(幻燈)をテーマに、八戸の文化と景観を融合させたシリーズなどの新作を紹介します。

企画の見どころ | 八戸三社大祭や八戸えんぶり、工場や桜などをテーマに、長期にわたり八戸市で制作した作品を展示。作品写真集を発行し、関連して八戸ブックセンターとの連携事業も行います。カメラの構造を体験して楽しめるプロジェクトなども実施予定。

2. 2022 年度春～ 2023 年度春 コレクションラボ

コレクションをさまざまな切り口で紹介する展覧会シリーズです。いずれも、観覧料は無料です。

現在開催中～ 6 月 20 日(月)

001 舟越保武展 静謐の中に佇む

具象彫刻の頂点を築いた彫刻家・舟越保武(1912-2002)を紹介します。



左 | 舟越保武《聖マリア・マグダレナ》1984

右 | 舟越保武《チエコ》1948

2022 年 9 月 10 日(土)～ 2023 年 1 月 16 日(月)

002 はちのへ郷土展(仮)

八戸の風景が描かれた作品を展示。作家の心情や制作背景を見つめます。

2023 年 1 月 21 日(土)～ 4 月 10 日(月)

003 新収蔵作品展(仮)

令和4年度(2022年度)新規収蔵作品の作品を紹介します。

好評開催中の企画展「持続するモノガタリ」 会期中イベント続々開催予定

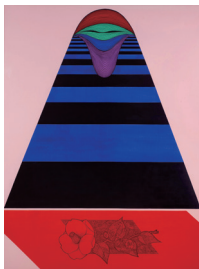
現在開催中～ 6月6日(月)

持続するモノガタリ—語る・繋がる・育む 八戸市美術館コレクションから

作品(モノ)が語ることと、作品を語ること。この2つの意味での「モノガタリ」によって、コレクションの物語を持続させることがテーマの展覧会です。八戸市のコレクションとともに、コレクションに纏わる人々へのインタビュー映像も展示します。

展覧会の最後には、担当学芸員が常駐しているブースがあり、感想や疑問をその場で話いただけます。学芸員不在時には、「モノガタリカード」に質問や感想などメッセージを書いていただき、後日学芸員がコメントを記して掲示しています。

また、旧八戸市美術館の入口の生垣に設置されていた松村外次郎《蓬瀬》を、その当時の場所と向きで展示しており、旧美術館と新美術館との繋がりを感じられます。



左 | 豊島弘尚《墓獅子舞 A》1968

中央 | 八戸市立湊中学校養護学級生徒《虹の上をとぶ船総集編Ⅱ 星空をベガサスと牛が飛んでいく》1976

右 | 松村外次郎《蓬瀬》1956、旧八戸市美術館での展示の様子

1. 会期中イベント

①鑑賞クラブ「木夕」

木曜夕方のクラブ活動。作品を1点選び、集まったみんなで楽しくおしゃべりしながら鑑賞します。

日程 | 4月28日(木)、5月12日(木)、5月26日(木)

時間 | 18:00～18:45

定員 | 各回10名

参加料 | 無料 ※要展覧会チケット

申込 | 電話またはメール



②アーティストトーク

アーティストが自身の展示作品を語ります。

日程・アーティスト | 4月24日(日) 石橋忠三郎、5月22日(日) 今川和男

時間 | 11:00 ~ 12:00

定員 | 各回 20 名

参加料 | 無料 ※要展覧会チケット

申込 | 電話またはメール

③ギャラリートーク

担当学芸員が展覧会の見どころを語ります。

日程 | 5月8日(日)、6月5日(日)

時間 | 14:00 ~ 15:00

講師 | 篠原英里(本展担当学芸員)

定員 | 各回 20 名

参加 | 無料 ※要展覧会チケット

申込 | 不要

2. 新チケットシステム「かおパス」

同じ展覧会を何度でもご覧になれるフリーパス「かおパス」が登場。「持続するモノガタリ」では、一般は1,200円、小・中高校・大学生は150円、市内及び近隣市町村の65歳以上・障がいのある方とその付添者1名は600円で販売しています。総合案内で、顔認証システムを用いて登録します。

その他、近隣の駐車場利用がわかる駐車券などの持参で、運転手1名分を団体料金とする「駐車場割引」も新設しています。

3. 4月11日(月)より、施設の利用制限を解除しています。

八戸市美術館では、4月11日より新型コロナウイルス感染拡大防止対策を見直し、これまで実施していた入館の際の記名・健康チェックシートへの記入を不要とします。また、北エントランス(広場側)に加え、南エントランス(八戸酒類側)からも入館可能となります。

来館の皆さまには、引き続き、検温・手指消毒・マスク着用にご協力いただくとともに、館内の換気や定期的な除菌作業などの徹底した感染防止対策を講じ、安心して美術館をご利用いただける環境を提供します。

広報用画像



a



b



c



d



e



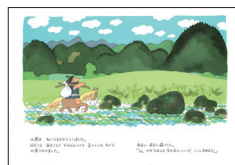
f



g



h



i



j



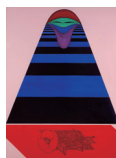
k



l



m



n



o



p

a, b, e, f, k クレジット不要

c 鳥取市用瀬町駅前にて(2016)、写真：田中良子

d イラスト：きたがわゆう

g 馬場のぼる《『11 ぴきのねことあほうどり』リトグラフ(色校用)》1972、こぐま社蔵 ©Noboru Baba

h 馬場のぼる《ブウタン『幼年ブック』1954年1月号原画》個人蔵 ©Noboru Baba

i 馬場のぼる《『きつね森の山男』特装版》1999、こぐま社蔵 ©Noboru Baba

j 佐藤時啓「マジックランタン」シリーズより、2022、作家蔵

l 舟越保武《聖マリア・マグダレナ》1984

m 舟越保武《チエコ》1948

n 豊島弘尚《墓獅子 A》1968

o 八戸市立湊中学校養護学級生徒《虹の上をとぶ船総集編II 星空をベガサスと牛が飛んでいく》1976

p 松村外次郎《蓬瀬》1956

広報用画像をご希望の方は、【1. 会社名 / 組織名、2. 媒体名・媒体の種類(雑誌、テレビ、webなど)、3. ご担当者名、4. ご連絡先、5. 掲載／放送予定日、6. 画像到着希望日、7. ご希望の写真が掲載されているプレスリリースの発行日、8. ご希望の写真記号】をメール、または FAX に明示の上、下記、お問い合わせ先までご連絡ください。

[画像の貸出条件]

- 画像は本企画・美術館の紹介の目的のみにお使いいただけます。
- 画像データは第三者へ譲渡せず、使用後すみやかに消去してください。
- 画像のトリミングについては事前にご相談ください。
- 作品画像の上に図や文字を重ねることはできません。
- 画像を掲載、放送する際には、指定のクレジット表記を必ずいれてください。
- 画像を掲載、放送する前に、ゲラ等掲載案をお送りください。担当者が確認します。
- 新聞紙、雑誌、書籍等の印刷物に画像を使用する際は、八戸市美術館に1部ご寄贈ください。

お問い合わせ先

八戸市美術館 031-0031 青森県八戸市大字番町 10-4 TEL | 0178-45-8338(代表番号) FAX | 0178-24-4531
E-mail | art@city.hachinohe.aomori.jp 八戸市美術館公式 HP | <https://hachinohe-art-museum.jp>
担当者(広報)|大澤、山内